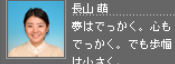


Title: 萌の宿話



長山 萌  
夢はでかく。心も  
でかく。でも歩幅  
は小さく。

山岳地帯や国境付近  
をまわります。移動  
が大変...トホホ

● 最近のエントリー

- 📁 [アマの朝と祈りのうた](#)  
(2012.07.28)
- 📁 [クルタとチュラと少女たち](#)  
(2012.07.26)
- 📁 [ネパール・ダルケ](#)  
(2012.07.26)
- 📁 [are you happy?](#)  
(2012.07.12)

● アーカイブ

- 📁 [2012年08月](#)
- 📁 [2012年07月](#)
- 📁 [2012年06月](#)
- 📁 [2012年05月](#)
- 📁 [2012年04月](#)
- 📁 [2012年03月](#)

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



1/30 2.0

萌の宿話 > 2012年07月 アーカイブ

12.07.28

アマの朝と祈りのうた

[Tweet](#)

[Check](#)

ブジェルー家には  
ものすごくいい長寿のブア（お爺さん）とアマ（お婆さん）がいます。  
ネパールの平均寿命は60歳前後と言われていたらしいのですが  
なんと、ブアは90歳!!!  
村でも評判の長寿です!!!!  
▼ブアとアマ



ブアはいつも縁側についてほとんど動かないけれど  
（お手洗いとマンゴーを食べる時だけ動く。後、私を縁側で寝かしつける時...）  
アマは朝から晩までせかせが。  
（休憩中はタバコをプカプカ。）  
アマに限らず大人も子供も皆せかせがで働くから  
撮影はものすごく大変www  
私は、なかなか皆の動きについていけない。  
そんな中で

私はアマのお祈りが  
特に心惹かれる時間だったんですね。  
毎日、夢中でシャッターを切りまくってました。  
ただ、私が写真を撮っていることに気がつく  
とそこで動きを止めてくれるので  
雨の日は本当に申し訳なかった...  
アマのお祈りは  
鈴を鳴らして、  
おまじないの様な歌をうたいながら  
お外にある（（（神棚？）））にお水とお花をそえて  
玄関口の頂上に赤い粉をつけて  
要には  
台所にある神棚にも赤い粉を付ける。  
私が子供たちにお祈りのことや  
ヒンドゥー教徒についてあれこれ聞いていると  
今度、逆に私の宗教について  
質問をされてしまいました。  
クリスマスはどうしてるのか？  
亡くなった人の体は？  
お葬式は？  
お祭りとは？  
神様の名前は何？  
って次々に...  
クリスマスはクリスマスケーキ食べて...  
ってが、それよりも正月の方が重要で（多分）  
亡くなった人の体は焼いて（ネパールも同じ）  
葬式はお寺の人が来て  
お祭りはお盆に  
花火大会とか灯籠流しとかをわたしの  
ホームタウンではやってるわよ  
ってお盆で何wwwって聞かれて  
お盆の説明をするのにとでもとても苦労しました。  
お墓行ってご先祖様を迎えに行って  
って話したらすごくビックリ？感激？されてしまって...  
そして

私は多分、仏教徒だけど  
日本はルンビニ（ネパール）に沢山いるような仏教徒とは  
大分、考え方が違って  
皆が皆、同じ神様が居るわけではなくて（多分）  
亡くなった人が仏様（神様？）になって  
それは主に、自分のご先祖様で  
その人に手を合わせるのよ  
いわゆる先祖崇拝なのよ。  
後は、神運ってのもあって  
これは日本人くらいにしか理解できないようなもので...って  
話しました。  
そうこう話しているうちに  
今まで、無宗教でずっと生きてきたけど  
仏って無宗教じゃないんだな～  
なんて思ったりして  
お家にお仏壇も神棚もあるし  
祖母や母が毎朝、  
お仏壇にお水とお茶とご飯をお供えしてるし...  
後、家の玄関に魚の絵飾り...（？）  
饗食べたり...って宗教と関係あるのがかんないけど。  
それから  
もしかして日本人はアミニストでもあるんじゃないか  
なんて勝手に考え込んだりもしましたわ。  
なぜならば  
木を切る時に、神社の人がきて  
木を切る儀式をしているので...

というか  
先祖崇拝という時点で  
これは、もうアミニズムなんじゃ(??)  
とにかく!!!!  
私は無奈教じゃないぞ～～～！  
とカトマンスに戻って  
皆に宣言してみました。

カテゴリ:  
post by 長山 萌 | 日時: 2012.07.26 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

萌の日記 > 2012年07月 アーカイブ

12.07.26

## クルタとチュラと少女たち

[Tweet](#)

[Check](#)

2012年7月14日

私はチャンダニとスリスティ(従姉)と共に  
近所に住むリティカの家から  
帰る途中に近所の雑貨屋さんでチャイを飲んで道草をしていると  
急に店の電気が消えた。  
なんだよ停電か～  
なんて思っていると  
辺りにはホタルの光キラキラ光って  
空を見上げると  
見たこともない数の星が空いっぱい広がって  
何處も何處も  
私の視界を星が横切る。

帰り道は  
停電だろうがなんだろうが  
街灯なんでもないので  
チャンダニとスリスティが私の手を引いて  
足元を懐中電灯で照らしながら  
お家に帰りました。

私がリティカからもらったクルタを奪って帰ると  
皆が私の方に  
懐中電灯の光を当ててるから  
調子に乗ってクルクルまわってみる...  
そしたら皆が一瞬に  
「フューティフォー」って。  
かなり照れる...  
でもね  
かなり嬉しいよ。  
暗闇の中で  
チャンダニが携帯電話から音楽をかけると子供たちが踊ります。

クルタの線と  
丁寧にブローされて濡まれたお下げ髪が  
ヒラヒラ舞って  
腕に付けたチュラが懐中電灯の光に反射して  
キラキラ光る。  
ネパールの女の子達は本当に綺麗だな～  
とうっとり。  
私が笑いながら手を叩いていると  
「ディディも踊ろう」って  
踊ろうって...  
私が無理無理ってジェスチャーすると  
チャンダニが私の手を引いて...  
皆が揃って手を叩くから  
調子に乗ってチャンダニと一緒に踊る。  
基本的に懐中電灯を使うはお手洗いにいく時だけなので  
夕食はロウソクの灯りを頼りに、  
夕食の後は満点の星空とホタルの光の中で  
チャイを飲みながら  
家族皆で  
遅くまで歌を歌ったり  
おしゃべりをして過ごしました。  
▼ネパリースタイルの長山



この日は  
いままでにない驚沢をしたのではないかしら～。  
と終始ドキドキしていました。  
そして、私は  
「イケナイ、イケナイ!!!」  
と思いつつも  
「お父～！ママ～!!!!」と叫びたくなってしまいましたよ。  
FWが辛いとか、一人が寂しいとかではないけれど  
この日ばかりは  
ものずっっごく家族に会いたくなってしまいました。

カテゴリ:  
post by 長山 萌 | 日時: 2012.07.26 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

## ネパール・ダルケ

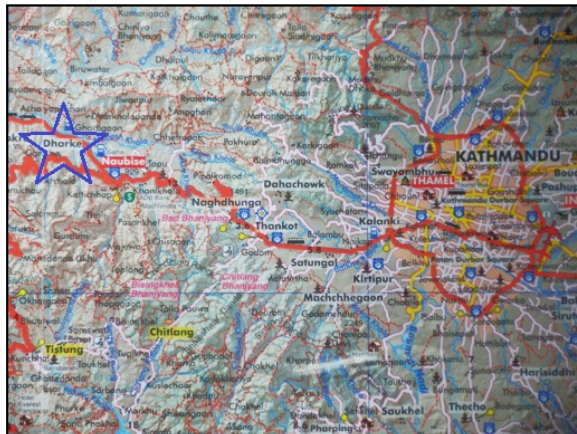
[Tweet](#)

[Check](#)

只今、中国は雲南省の昆明市でございます。  
中国に入国して一週間が経とうとしていますが

私は  
いよいよ明日、撮影地へ向けてバスで昆明を立ちます  
が  
その前に  
大変遅くなりましたが  
ここでネパールでの滞在期間のことを少しづつ振り返っていきますね。

当初、ネパールでの撮影はとってもちろぬ高い所へ行く予定だったのですが  
ネパール入国早々に体調を崩した私は  
高山病への恐れから  
予定をキャンセル...  
このまま私はネパールをタメル地区でぼや〜と過ごすことになってしうんたろうが...  
いんや！  
撮影したいぞー!!!  
ってことで  
フリー期間に突入してから奮闘していた  
ホテルのしせぷしょんに相談に向かったのですよ。  
ネパール滞在の目的をホテルのマネージャーさんに  
あれこれ説明していると  
ホテルオーナーが  
僕（ホテルマネージャー）のお家に行ったらどうだい？  
と...  
そして  
とんとん拍子に話が進み  
私は  
ホテルマネージャー：ナラヤン・フジエルさんのご実家へホームステイすることになった  
のです。  
まさか  
まさか  
まさか  
こんな素敵な展開が待っているとは思いませんでしたよっ。  
私がお世話になったナラヤンさんのご実家は  
カトマンス市内からボカラ方面へバスでクネクネの山道を越えて2時間弱の  
ダルケ（Dharke）という小さな街



から山を1kmほど登った村にあります。  
ナラヤンさんの家族は  
お父さん、お母さん、奥さん、娘さん、弟さん、お兄さん、姪っ子、甥っ子、甥っ子の息  
子・娘...  
も〜大家族!!!  
めちゃくちゃ家族が多い!!!  
滞在中は英語が話せる娘さん（チャンダニ）  
が通訳をしてくださって  
弟さん（ラジュクマルさん）  
が私のお世話をしてくださいました。  
フジエル一家は農家なのですが  
私が滞在していた期間はちょうど田植えの時期で  
撮影をしながら  
私も田植えに挑戦〜  
田植えなんていつぶりだろうが...  
小学生以来がしら...  
ドロドロの泥は足がとられて  
歩くのがやっとだったのでだけれど  
ドロドロになるのは  
とっても気持ち良かった〜☆

カテゴリ:

post by 長山 嶺 | 日時: 2012.07.26 | [バナーリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

12.07.12

## are you happy?②

[Tweet](#)

[Check](#)

ブリー・フィッシャーマンビレッジで  
アモジという女性に出会った。  
アモジは強くて美人で  
話したかなおかあちゃん。

アモジの家族は  
今年の3月に一家揃って  
アンドラプラデッシュから  
オリッサ州ブリーのフィッシャーマンビレッジへ越してきたそうだ。

しかしながら  
アモジの夫は漁師ではない...  
「私の夫は漁師じゃない。漁師になる為にはボートが必要だけど  
ボートを買うお金がないから夫は漁を持てないよ。」  
彼女は私に、そう教えてくれた。

じゃあ、どうやって生活をしているのかといえば  
彼女が仕事をしているそうだ。  
彼女の仕事はヘナデザイナー。  
私も彼女にヘナをやってもらいましたよ。  
でもね  
お世辞にも上手いとは言えないんだよねっ。  
本当にこれで仕事になっているのだろうか...  
と考えてしまう。

ある日  
村へ向かう途中で  
ぱったりお祈りに向かうアモジに会った。  
私が彼女の後にくっついて行くと  
何故進んでくるのか、と言われたので  
私は  
「あなたと話がしたい」と答えた。  
「OK」とアモジ

お祈りの場所は  
ビーチ沿いに建てたれた  
藁で造られた小屋でした。  
あれっ？お寺じゃないんか？  
と疑問に思ったけれど  
漁村の人間はお祭りなどの特別な催し事がない限り  
ヒンドゥー教徒であっても  
寺院へ行くことがない（...というかいけない？）そうなんですよ。  
小屋に着くと  
教師さん（？）みたいな人が  
黄色と赤の粉をおでこ噴仏に  
ちょんちょんと付けてくれて  
小屋の中へ入れてくれました。  
私も見よう見真似でお祈り...  
でも  
アモジは私が小屋の中へ入って  
お祈りをしていることが  
気に食わない感じだったんだよね。

その通りに  
あなたの宗教は？神様は？  
って聞かれた。  
私の家庭（日本の大多数）のお葬式は  
お寺さんを呼んで  
仏教徒のお葬式をしているけど  
私なんかは無宗教みたいなもんだ。  
だから  
私は無宗教で、私には神様と呼べる存在はない。  
と答えた。

そしたら  
アモジは私に  
「Are you happy?」って尋ねた  
私は  
happy...happy...happy?  
ってひたすら呟いていた...  
私には  
大切な家族も友達もいて  
やりたい事をして  
食べたいものをいつでも食べられて  
自分の夢や目標を語る余裕もあって  
差別をうけることもなくて  
もの凄く恵まれた環境で生活している  
なのに  
「I'm happy」  
って答えられなかった...  
別に幸せだと感じていないから  
答えられなかったわけではないんですよ。  
神様を信じている彼女にとって  
お金があって  
大した苦労もなくて  
世間知らずの日本人のお嬢さん  
である私が「神様いないけどハッピー」  
そんなことを言ったら  
彼女は どう思うのだろうか...

(優柔善良な私はいつも「what do you want?」って言って彼女に喝を入れられる...)

プリーの漁村に住む人たちは、皆それぞれに  
様々な問題を抱えながら暮らしている。  
話を聞くと  
プリーの漁村に住む大多数の人たちは  
ローカルの人間ではないそうだ。  
お金がなく漁師になれなくても  
漁村へ悪ししてくる人たちが大勢いる。  
なぜかっていうのは  
明確には分からないけれど  
この村の中にいれば差別を受けることがないのだと  
私は感じたんですよ。

最後に  
アモジは本当にしっかり者のおかあちゃん。  
アモジの家だと  
ご飯を食べたら  
きっちり食事代を請求される。  
それに、彼女は  
村の現状や自身の益を見せつけるのではなく  
はっきりと私に話してくれた。  
助けが必要だってことも言われた。  
新しいものでなくても良い。必要のないものを少しでも譲って欲しい。  
「If you want」ってね。

-----  
インドの鎌めくりりに～  
私がインドのカーストについて  
あーだのこーだの言う権利はひとつもないです。  
日本にだって差別がないわけではないので。  
でも、ひとつだけ  
インドに来て驚いたことがあります。  
色んな事情があって  
職が持てない人たちは物乞いをしている。  
私の感覚だと  
正直けむたいな...と思ってしまうけど  
インドでは  
物乞いが職業として成り立っているんですよ。

そんなもって  
超裕福ってわけでもない人達でも  
皆ちゃらんちゃらんってお金を遣してる。  
なんか...凍過ぎて言葉にならないよ。うん

カテゴリ:

post by 長山 晴 | 日時: 2012.07.12 | [バナーリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

職の生涯 > 2012年07月 アーカイブ

12.07.11

## are you happy?

[Tweet](#)

[Check](#)

只今、ネパール・カトマンズ

遅くなりましたが  
インド・プリーのビーチ沿いにある  
フィッシャーマンビレッジでの撮影。  
ここでの撮影を振り返りますね。



トユニでの滞在中に「アンタッチャブル（不可触民）」という言葉を開き  
カースト時代に  
そう呼ばれてきた人達の家の前を車で通りすぎました。  
藁葺き屋根のものもこっとしたお家。  
アンタッチャブル...  
(アンタッチャブルはいわゆる労働者階級の人達を指すのではないがしら。  
インド人がワーキー・ビーポーと呼んでいたの。)   
彼らはカーストに属さない、カースト以下の民だそうです。  
カースト時代には彼らの声を聞くことも  
彼らを見ることも不浄だとされていたらしい...  
というか  
今でも「その常識」は続いていますよ。  
カーストが廃止されたとはいえ  
インド人の価値観や感覚は  
まだまだ、カーストの名残があると思うのよ。

電車の車窓から  
谷瀬が外に向かってシャッターを切っていると  
サラリーマン風の男性に、撮っては駄目だと言われました。  
谷瀬が向けるレンズの先には「労働者」が沢山いました。  
私が、何故駄目なのか、と尋ねると  
「彼らは益しくて、汚い。」  
答えはそれだけでした。

ヒन्दュー社会における彼らの仕事は  
不浄なものに触れやすい仕事  
路上清掃、洗濯屋、皮革労働...  
因みに、お医者さんや占い師もアンタッチャブルに位置するんだとか...

(ん〜、結局、働く人は皆アンタッチャブルなのか...?  
っていうか、自分以外の人間はみんな不浄なんじゃ...?  
もしもそうならば  
よく子どもなんかつくれるな...と思ってしまうよ...)

はいはい  
それではプリーのはなしに入りますが  
私はプリーでの撮影初日に「アンタッチャブル」  
という言葉が頭を過ぎりましたよ。

プリーの漁村に住む彼らはアンタッチャブル...?  
私が漁村での撮影中に  
彼らが大通りへ出て行くことが全くといっていいくらいにありませんでした。  
買い物にもいかない。  
学校もプリーの街中にあるはずなのに  
村の子供たちは  
村の中の小学校に通っているんです。  
大通りと村には物理的な距離は全くないのに  
明らかに、大きな壁があるように  
私には感じてしまったんですよ。

でも、はっきり言って  
日本人である私にとって  
インドのカーストなんざ関係ないのよ。  
私が、どんなインド人と関わろうが  
どんなインド人にも関係ない。  
私は、ちゃんと彼らと話をして  
彼らの声を聞いて  
彼らを見よう。  
そう決めて  
プリー滞在中は毎日、村に通い  
彼らと沢山話をして  
(たわいのない話も、取材にかんする話も)  
ご飯を一緒に食べて  
一緒にビールも飲んで  
一緒にテレビを観て  
たまに昼寝もしてみたりして...

それでも、もちろん  
彼らとは同じになれない部分は沢山ありますよ。  
彼らからすれば  
私は「お金持ちの日本人」  
行けば必ず  
「1ルピー」「ビスケット」「チョコレート」「ノート」「ペン」  
ブリス、ブリス.....  
何處も気が狂いそうになって  
(夜中、うなされて井間、谷瀬には大分迷惑かけたよ)  
ビーチまで歩く足が重くなったのよ。

でもね  
撮影のために割り切るしかないんです。  
むしろ  
撮影させてもらうんだから  
相手に対して報酬を払うのは当たり前だと思わないといけないです。  
日本で  
誰かにモデルを頼む時だって  
交通費出したり  
昼ごはんご馳走したり  
時間作ってもらってるんだから  
バイト代払ったり...  
当たり前に行っているんだから  
ブリーでも  
その感覚を忘れちゃいけない  
その感覚でいなきゃやってられない...  
だから  
私は撮影に行く前には  
必ず雑貨屋へ行って  
5ルピーのビスケットと25ルピーのタバコを買ってから撮影に出かける。  
でも  
そうしているうちに  
お金を払ってないのに  
自然と食事と呼んでくれたり  
子供たちがチューインガムをくれたり  
チャイを出してくれて雑誌したり  
お前は吸ったことないだろ?と  
BIDI (30本くらい入って5ルピー) っていうインドの番きタバコをプレゼントしてくれたり...  
(+試しに吸ってみただけど既持ち悪い)  
いつお金を要求されるんだらうか  
いつ脅されるんだらうか  
と全く不安がなかったわけではないけれど  
やっぱり  
素直に嬉しかったよ。



カテゴリ：  
post by 長山 萌 | 日時: 2012.07.11 | [パラマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

萌の缶詰 > 2012年07月アーカイブ

12.07.05

インド愛してるよ。そんで皆も

[Tweet](#)

[Check](#)





只今はインド・デリー  
インドでの自由取材期間が終了し  
デリーの指定泊に入りました。

短かったインド  
長かったインド  
あっという間に過ぎてしまったインド

インドは女子の単独移動ができないので  
私は自由取材期間の初日からずっと谷瀬と一緒に  
トユニでの社会貢献の時から井間が加わって  
そこから、ここデリーまでずっと3人で過ごしていました。

私達7期生はメンバーが少ないから

日本を出てから  
今まで  
メンバーの誰かと  
同じ地域へ行くことも  
互いの撮影を見ることも  
ほとんどなかったけれど  
インドでは  
朝から晩まで  
日中、出かけるときも  
(自身のフリーでの撮影以外)  
移動の時も  
ずっと谷瀬と一緒に  
彼女がシャッターを切る姿を  
沢山見ることができた。  
トユニの孤児院を訪ねて  
井間がどう取材を続けているのか  
どう過ごしているか見ることができた。  
互いの撮影スタイル  
互いの旅のスタイル  
今まで知らなかったことが沢山見えて  
今まで考えたことのないことを沢山考え  
色々な考えや感情がこみ上げてきたよ。

朝、目が覚めて二人が隣にいてとホットして(ダブルベットで川の字)  
昨日はありがたう。今日も頑張るよってなるし  
洗面所に入って、それぞれのシャンプーやら歯ブラシが並んでいると  
今日もありがたう。明日もながやんは頑張るよってなるし。  
もちろん  
お互いにすれ違いや誤解も沢山あって  
イライラしてムシャクシャして...  
ってことも沢山あって...  
でも  
自分の気持ちや  
相手の気持ちを  
お互いに言葉にすることで  
今まで、知らなかった相手の一面が見れて  
すごく嬉しいです。  
そしてめっちゃくちゃ好きになるよ。

私はですね  
インドに入ってから  
めっちゃくちゃ笑ったり  
めっちゃくちゃ怒ったり  
めっちゃくちゃ泣いたり  
すっごくすっごく忙しかったけれど  
ひとつひとつ落ち着いて物事を考えられたのではないがしらっ  
と思います。  
それは  
「インド」っていう国がそうさせてくれるんでわないながな〜。  
っていうのも  
この国は私次第で物事が進んでいくんです。  
良い方へ転んでも  
悪い方へ転んでも  
全部、自分が選択したこと。  
だから、周りは私が答えを出すための時間をちゃんとくれるんですよ。

インドは  
嘘つきな奴も  
しつこい奴も沢山いるけど  
なんだか皆  
色々な意味で「マジ」だから私は好きですよ。

次は9カ国目・ネパールです。  
インドでクリアできなかったことを  
ひとつひとつ確認していかなければ  
なかなか前には進めないです。  
それと  
久々の一人での行動は  
やはり  
不安ですね...  
頑張りますよ。はう...

カテゴリ:

post by 長山 鶴 | 日時: 2012.07.05 | [バナーリンク](#) | [コメント \(1\)](#) | [トラックバック \(9\)](#)

[鶴の缶詰](#) > 2012年07月 アーカイブ

12.07.04

## 最後の最後のお楽しみ

[Tweet](#)

[Check](#)

フリーでの撮影を終えて

女子3人はアグラーに滞在しております。  
アグラー暑いです。  
乾燥しています。  
日差しが痛いですが...

アグラー滞在の目的は  
やはりタージマハール☆☆☆☆  
「インドといえば」で最初に頭に浮かぶ  
白くて大きなお寺。



タージマハールへ向かう道りは  
想像よりもっとこい人はいなかったけれど  
やっぱり子どもが一人  
チケット購入の際も  
荷物を預けるときも  
銃砲、弾丸トランクで付きまどって来ていましたよ。

「少年、頑張れ。君は良い営業マンだぞ。」

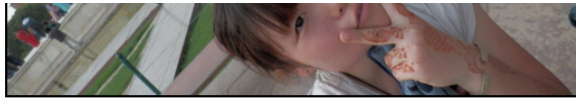
そして  
私たち3人はタージマハールへ  
インド人の皆さんは  
暑さを凌いで敷地内の隅が当たらない場所で  
地べたに座ってのんびり  
私たちも  
同じようにのんびり  
そうしていると  
私たちの周りに人衆が~~~~！！  
一緒に写真を撮って  
赤ちゃんを抱っこして  
握手をして...  
私たち芸術人が夢の国のネズミみたいだっ



最後は3人でタージと一緒に  
記念撮影☆☆







カテゴリ:  
post by 長山 鶴 | 日時: 2012.07.04 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

Copyright 2012 All rights reserved NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

powered by OLYMPUS